



## 泌尿器科とは

泌尿器科は、尿路（腎臓、尿管、膀胱など）と男性生殖器（前立腺、精巣など）の疾患を扱う診療科です。これらの臓器に発生したがんに加え、尿路結石、感染症、排尿障害、性機能障害、男性不妊症、女性の骨盤臓器脱といった様々な疾患を診療しています。超高齢社会である本邦において、泌尿器科の担当する疾患は急激に増えており、その重要性がますます高まっています。

がん治療においては、手術、放射線、薬物療法（化学療法や免疫療法）を適切に組み合わせることで、癌を治療するだけでなく、治療後の生活の質を保つことを目的とした、低侵襲な治療を心がけております。手術では、最新鋭の手術ロボット「ダ・ヴィンチ Xi」を用いた手術に加え、腹腔鏡下手術、腹腔鏡下小切開手術といった複数の低侵襲手術が施行可能です。進行癌の患者さんへの拡大手術も数多く施行しており、患者さん1人1人に合わせた最適な手術を施行しております。

がん以外の治療では、尿路結石に対する結石破碎術、前立腺肥大症に対する手術、男性不妊の原因となる精索静脈瘤に対する顕微鏡的手術、女性の骨盤臓器脱に対する手術など、幅広く施行しております。

## 当科の特徴的な診療・研究

- 前立腺癌に対するロボット支援前立腺全摘除

当院では「ダ・ヴィンチ Xi」を用いたロボット支援前立腺全摘除を年間130例程度施行しており、優れた治療成績を報告しております。

- 筋層浸潤膀胱がんに対する4者併用膀胱温存療法

経尿道的膀胱腫瘍切除、化学療法、放射線療法に膀胱部分切除を加えることで、膀胱全摘除と同等の根治性を維持しつつ、患者さんの膀胱を温存する治療を行っています。

- 小径腎臓がんに対する無阻血無縫合腎部分切除術

術後の腎機能を保つために、腎臓の血管を遮断しない方法で腎部分切除術を施行しております。無阻血法での腎部分切除を施行している施設は全国的にも少なく、当科の特徴的な治療の一つです。

- がん免疫療法の治療効果予測、予後予測バイオマーカーの探索

近年登場したがん免疫療法は非常に有効な治療ですが、どのような患者さんに効果が得られるかは十分に知られておりません。摘出した腫瘍組織を詳しく調べることにより、免疫療法の治療効果を事前に予測する研究を進めております。

- 遺伝性（家族性）腎がんの遺伝子評価、治療法の開発

腎がんの患者さんの中には遺伝性（家族性）の明らかな方々がいらっしゃいます。そのような患者さんの腫瘍組織を詳しく調べることにより、原因となる遺伝子異常の評価や適切な治療法の開発に取り組んでおります。

- 新規画像診断を用いた集学的がん治療の開発

従来のCT検査のように形態を評価する画像診断法に加え、組織の性質を評価できる新規画像診断法（拡散強調MRI検査やFDG-PET検査）を積極的に用いて、転移巣の早期発見、手術や放射線治療による転移巣治療を行い、治療成績の向上を目指しております。